

# 令和5年度 第2回子ども・子育て支援会議 議事録（概要）

○開催日：令和6年3月28日（木） 13時30分 ～ 15時30分

○会 場：本庁舎6階611～613

○出席者：（委 員）有田会長，中西副会長，伊野部委員，神家委員，吉川委員，久万委員，斉木委員，  
田井委員，中屋委員，宮地委員

（高知市）（こども未来部）大野部長，和田副部長

（子育て給付課）山中課長，森木課長補佐，山脇係長，刈谷主査補

子ども育成課 黒岩課長補佐，保育幼稚園課 宮地課長，母子保健課 谷村課長，

障がい福祉課 大中課長，健康増進課 小藤課長，地域共生社会推進課 島崎課長，

子ども家庭支援センター 高橋所長，教育研究所 八木特別支援教育担当副参事 他

○欠席者：井上委員，沖田委員，齊藤委員，新谷委員，松岡委員

## 1 開会

こども未来部長あいさつ

会長・副会長あいさつ

事務局紹介

## 2 議事1 第2期高知市子ども・子育て支援事業計画の実施状況について

### ① 評価に関する説明

【子育て給付課から説明】

資料1～5

【質疑応答】

なし

### ② 重点施策1 妊娠期からの切れ目のない支援

「産後ケア事業・多胎家庭支援事業」について，母子保健課から資料5（p4～16）をもとに説明

【母子保健課から説明】

資料5（p4～16）

【質疑応答】

（斉木委員）

先ほど説明いただいた事業について，実際どのように妊婦に情報を提供しているのか。

（母子保健課）

高知市では妊娠された妊婦さんに，産婦人科でもらう妊娠届出書を各市町村の窓口へ持参してもらい，母子健康手帳をお渡ししている。その際に保健師・助産師・看護師資格のある専門職員と面談をし，アンケートに答えていただきながら心配事や困りごとについて対応している。面談時には「こうち子育て支援ガイドばむ」の情報誌や事業のチラシについて説明し，情報提供も行っている。また妊娠8か月には全数にアンケートを実施し，相談の希望がある場合は子育て世代包括支援センター職

員や地区の保健師が対応し、個別に情報提供や相談に応じている。出産後も赤ちゃんおめでとう訪問で全数家庭訪問し、産後の困りごとや不安に対する相談に応じ、再度情報提供を行っている。このように高知市としては何重もの情報提供の機会や相談する機会を提供している。

**(吉川委員)**

産後ケアについて、上限や自己負担金が決まっているが、例えば産後ケア（宿泊型）は2泊目以降は半額になるとのことであるが、1泊目から半額にできないのか。なぜこのような設定をされているのか、上限と費用について説明していただきたい。

**(母子保健課)**

自己負担については、産後ケア事業が始まったときに国から自己負担を前提とした事業を立てるよう示されたため、このような形をとっている。自己負担の料金設定については、自治体ごとに設定している。産後ケア（宿泊型）の1泊目と2泊目の自己負担額の違いについて、令和4年度までは、1泊目と2泊目で自己負担額に違いがあったが、事業委託費の概ね1割の自己負担をいただくことを高知市として設定し、令和5年度からは1泊目も2泊目以降も4,000円となっている。

**(吉川委員)**

利用回数の上限についてですが、設定されている上限回数は少ないのかそれとも納得できる回数なのか。また上限を超えて利用した場合はどうなるのか教えていただきたい。

**(母子保健課)**

上限については各自治体で設定している。令和4年度は上限回数を7回と設定しており、上限を超えての利用は国からの助成対象から外れるため、全額自己負担していただく形になる。実際に自己負担で全額支払って利用されている方もいる。上限回数については令和5年度から利便性等を考えた見直しをしている。

**(こども未来部長)**

少し補足しますと吉川委員のご指摘のとおり7回では少ないのではないかと、1歳になるまでに月1回程度は特に通所に通いたいという声もある。一方で施設の受け入れ数にも限度があるため、そのバランスを考え、令和6年度からは上限回数を7回から8回に増やすことが決まっている。

**(吉川委員)**

産後ケア（通所型）のニーズが高いのであれば、通所型施設を開きたいと考えている方に支援する体制も必要ではないか。

**(こども未来部長)**

県が令和7年度に向けて、高知市も含め県全体で単価を統一していこうという動きがある。また施設の開拓についても、高知県内34市町村の中で特に高知市に資源が集中していることや、地域で偏在があるため、どのような補助を出せるのか、県が令和6年度にかけて検討するということであるため、高知市も県と一緒に検討していくよう考えている。

**(伊野部委員)**

パパママ教室について、定員を超えるとお断りするケースがあると書かれているが、男性の育休取得については国の方でも喫緊の課題であると言われている。その中で、定員を超えた際にお断りするのはもったいないのではないかと。来年度はどのように取り組まれるのか教えていただきたい。

**(母子保健課)**

パパママ教室については高知市の市営で行っている部分と合わせて、病院や支援センターでも開催

をしている。コロナの時期はすべて閉鎖されていたが、現在は徐々に復活してきているため、高知市に問い合わせをいただいた際にはそれらの施設も案内させていただいている。また日程が合わない方については、子育て世代包括支援センターに直接来ていただき、説明を行う等個別に対応している。

**(有田会長)**

今の子育て家庭で三世帯同居はほとんどなく、子どもができて初めて分からないことや知らないことが出てくるため、地域でどのような支援制度があるかを知ってもらうために、妊婦さんだけでなく地域やその他にも広めていく必要がある。また、ニーズの高い産後ケアについてももう少し使いやすいうように費用等についても検討していただきたい。

**(こども未来部長)**

特に若い世代のお母様からは、子育ての情報をLINEでいただきたいという声も多く、高知市もLINEでプッシュ型の広報誌を送付するサービスを数年前から始めている。今後出てくる改善点を都度改善し、わかりやすい形で伝えていきたいと考えている。

**(有田会長)**

中には行きたいと思っても行く勇気のない保護者もいるため、社会全体に声掛けが必要である。社会全体に広めるためにもアナログ世代の方にも伝わるようお願いしたい。

**(こども未来部長)**

あかるいまち等々アナログでも力強く発信していく。

**(宮地委員)**

手厚い政策が行われているということだが、例えば、こうちし子育てガイド『ばむ』がどのあたりに渡っているのか、幼児を預かっている施設にも渡っているのか教えていただきたい。幼稚園・保育所で相談があった際に十分に答えられるようにするためにも、もし配布を行っていないのであれば、ぜひ配布先拡大を検討していただきたい。

**(母子保健課)**

保育園等、要望があれば配布させていただきたいと考えている。お母様方には母子手帳配布の際に必ずお渡ししている。周りの地域や施設については行き届いていないこともあるため、希望に沿った形で配布させていただきたいと考えている。

**(宮地委員)**

ぜひともそうしていただきたい。私どもが質問を受けた際に答えられないと非常によくないし、より周知を広げるうえでは活用したほうが良いと思っているため、ぜひ検討をお願いしたい。

**③ 重点施策4 児童虐待の発生予防**

「養育支援訪問事業」について、子ども家庭支援センターから資料5（p17～25）をもとに説明

**【子ども家庭支援センターから説明】**

資料5（p17～25）

**【質疑応答】**

**(吉川委員)**

ハイリスク家庭を見つけ支援を行っていくということであるが、そのような家庭はどのくらいの数があるのか教えていただきたい。また小さな問題が重なっているような家庭は見つけれられていないと感じるが、そのあたりはどのようになっているのか。

#### (子ども家庭支援センター)

入りは母子保健課がキャッチしてくれることが多い。その他には子ども家庭支援センターで訪問をした際に発見するケースや、委託先などでキャッチしている。中には小学校等の関係機関が入るケースもあるが、現状はこのような形で運用している。

#### (吉川委員)

他市の乳幼児集団健診に行った際に、健診に来た家庭のことを保健師さんが教えてくれるが、その家庭にどのような問題があるのかよくとらえられている。また、静岡県では地域で担当を決めているため、担当に家庭のことを一から話す必要がなく、問題が少なくなったというのを聞いた。人員の問題もあると思うが、そのあたり上手くいっているのか、何かいい方法がないのか教えていただきたい。

#### (こども未来部長)

ご指摘のとおり、そういった潜在的な家庭は大変多いと思われる。また資料の数字は実際に支援をした数字であり、課題を抱えている世帯はもっと多くいると考える。そこに対して今後どのようにアプローチをかけていくかについては来年、こどもみらいセンターを立ち上げ、サポートプラン等の具体的な支援をしている計画作りが義務付けられるため、その中でどのような方法が良いのかを検討していきたいと考えている。

#### (子ども家庭支援センター)

虐待死亡事例の検証報告の中でも、0歳児の死亡事例が半数を占めており、その中でも0日での死亡が多くなっている。現在は母子保健課のほうで妊娠届出時に全数面接をしておりますので、面接の中で心配な家庭については子ども家庭支援センターと情報共有を毎週1回行っているため、その中で出産前もしくは出産後から養育支援訪問事業の支援が必要な家庭か検討している。

#### (吉川委員)

資料5のp23の訪問延べ件数について、複数の支援を行っている家庭もあると思うが、対応実家庭数と同じくらい、もしくはさらに多くの家庭に支援を行っているのか。

#### (子ども家庭支援センター)

支援をした家庭に対して複数回行った回数である。

#### (吉川委員)

わかりました。対応実家庭数に対して支援をしており、複数回支援をすることで1つの家庭に対して手厚い支援を行っているということですね。

#### (宮地委員)

発見後のフォローについて、虐待があった園となると報道陣がいつの間にかたくさん来る。発見と同時に通報することによって負うリスクを感じないような対応をお願いしたい。また虐待が起きた園で箝口令を出しているが、どこからか情報が漏洩し特定されるケースがあり、対応が難しくなる事例があるため、十分に配慮願いたい。

#### (有田会長)

子どもたちが安全に安心して暮らしていただけるような環境を作っていくうえで、高知市の子どもに対して実態調査を行い、どのような施策が必要なのか検討していただきたい。

### ④ 重点施策5 障害など特別な支援を必要とする子どもへの支援の充実

「サポートファイルの活用推進事業」について、子ども育成課から資料5（p26～34）をもとに説明

**【子ども育成課から説明】**

資料5（p26～34）

**【質疑応答】**

**（斉木委員）**

サポートファイルについては、初めてお聞きしましたが、非常にいいものがあるなど思っている。世の中の動きとして税であればe-Taxのように、スマホ等、今の時代に沿った形のものに変革していくことは考えていないのか。

**（子ども育成課）**

アプリのようなものがないのではないかと、今の方々は全部スマホで写真を撮りそれを保管している等、以前からご意見もいただいているが、現在も関係機関から配布される資料や子どもの検査結果は紙媒体で受領することが多い。これらの受け取った紙を保管する場所に保護者の方は困られているという声から、1つにまとめて閉じて保管するファイルが必要ではないかということで始めたものであり、引き続き使っていきたいと考えている。今後アプリや電子様式についても検討はしていきたいと思っているが、現在ホームページでWord形式のデータをアップしているため、使いたい方はそちらの方にご自身で入力し、好きなように形式を作成してデータで管理されている方もいる。高知市としては関係機関や支援者の方に子どもさんのことを理解していただきやすくするための一つのツール、見本のような形で利用していただけたらと考えている。また、決してアプリを使わないということではなく、電子媒体についても検討は続けていきたい。

**（宮地委員）**

資料5のp31に市立・私立園長会のサポートファイルの説明とあるが、これは保育園だけではないか。

**（子ども育成課）**

今のところ保育幼稚園課が中心で開催している会に参加し、子ども育成課の事業を説明させていただいている。

**（宮地委員）**

そうですね、幼稚園連合会の中では説明を受けたことがないので。それでいて認定こども園に障害を持った子どもたちを受け入れてもらおうという施策を進めている。また保育所には加配保育士を一人雇えるだけの費用が十分出ているが、私立幼稚園由来の幼稚園型認定こども園は一人35万円と人を雇える金額ではない。同じ高知市の子どもなのに施設種別でこれだけ違うというのはいかがなものか。せっかくのサポートファイルも周知が行き届いていない、子どもが通う園に届いていないということについてぜひ改善していただきたい。また認定こども園に障害を持った子どもたちを受け入れてもらおうとする動きがある中で、補助金が少ないというのはいかがなものか。何らかの答えをいただきたい。

**（保育幼稚園課）**

まず私立園長会と表記しているのは民営保育園の園長会のことであるため、私立幼稚園連合会の会議では説明ができていない。機会があれば、説明もさせていただきたい。また障害のあるお子さんへの支援については、保育園と幼稚園・認定こども園で制度が違うため、保育園の方が補助金等の支援が充実して、幼稚園・認定こども園については十分ではないというところも我々は認識している。そ

の部分については国の方で施設類型に関わらず、すべての子どもたちが同じような支援を受けられるような形をすべきであるため、国にも制度の改善について強く要望していきたいと考えている。

#### (宮地委員)

国がどうという問題ではないのではないかと。私たち受け入れる側も十分なことができないのにお預かりするのは非常に難しいことであり、できないことをやれと言っているのと同じことになっているため、早急に検討・改善していただきたい。

#### (こども未来部長)

市としてできることについて検討し、市単の補助事業の拡充に向けて努力していきたい。

#### (吉川委員)

サポートファイルについてみたことはないが今話を聞いてすごくいいと思う。発達障害や知的障害のある子たちが学校を卒業後うちの施設に来た時に、その方がどういうことが楽しくて、どういうことが嫌なのか、学校からの情報が書かれているものすごく興奮した時の対応もわかる。診断書を書く時には必ずいつどういうことが起こったかを書く必要があるため、ぜひ情報を書いていただきたい。また保護者と保育園等の支援する側の情報を共有するツールであるが、支援を受けている子どもがいる保育園や小学校において、周りの子どもたちにどのように障害を理解してもらうかについて何かいい方法はないか教えていただきたい。例えばサポートファイルの中に保護者が子どもの状態を学校でカミングアウトするにはどのようなことに気を付けながら学校の先生と一緒に周りの子どもたちにわかってもらうのかということも書き込んではどうか。

#### (伊野部委員)

保育士の仕事で一番難しいのはあなたのお子さんには特別な支援が必要です、支援を受けた方がもっと伸びますよと親を説得することが一番難しい仕事だと思っている。やはり親との信頼関係がないといけませんし、下手すればその信頼関係自体が崩れることになる。その為、専門医療機関や教育研究所にもう少し踏み込んでいただきたい。保育士から伝えるよりもある程度権威ある先生方から親に説得していただくと、保育士としては気分的にも楽になる。高知市の方でも、公立の園長先生を経験された先生方が巡回で回ってきてくれてとても感謝しているが、そのようなお子さんのことについて話しても、大変ですねで終わるため、どのようにすればいいかのアドバイスを具体的にしていきたい。このようなことも含め、専門機関の活用推進を広げていただきたい。

#### (神家委員)

各委員がおっしゃられていることに追加で、近年教育の場ではインクルーシブ教育についても言われているが、障害のある子とない子を隔てるのではなく、同じ空間で保育教育をするということが世界中で求められている。それを進めていくには、障害のある子たちへの特別支援、そして一緒に生活する子どもたちをどのように一緒に教育していくかということが大きな課題になっている。保育の現場では専門的な知識や専門的な技術が必要になってくるため、その支援を行政がどのように計画されているのか、現在どのように取り組まれているのか教えていただきたい。

#### (保育幼稚園課)

高知市では、特別支援保育・教育について昭和48年から加配制度を設けており、インクルーシブ教育・保育という概念で、集団の中でともに育ちあうことを目的としており、統合保育という形を行っている。高知市ではインクルーシブ教育・保育という概念を非常に大事にして実践しており、一人ひとりに応じた支援というところで全体の園に支援を行っている。

### (宮地委員)

早期発見をしていくという部分で、伊野部委員がおっしゃられたように幼稚園は大変苦労している。人間関係が崩れる場合もありますし、一例としては親が認めないために裁判沙汰に近いようなことも起こっている。障害は本人が認めなければ療育、特別支援へとつながらない。特に知的障がいや情緒障がい等の判定は難しい。また、小さい子どもにとっては保護者や養育者が認めない限り療育、特別支援へとつながらないため非常に大きな問題である。専門機関と協力しながら、保護者にどう認めてもらうのか、下手すれば養育放棄になることも考えられるため、そういったところに重きを置いていただきたい。またサポートファイルをカルテ的に送っていきながらどのように変容していくのか、最大限に生かせる部分が何かというところを見ていく必要がある。障害を認めた方にだけ支援をする形にならないようにぜひお願いしたい。

### (有田会長)

教育・保育に携わっているのは保育者であるが、特別支援については医療関係の方の支援も必要である。保護者にどのように話していくかについては、カウンセリングのため、専門性も必要であり、多様な専門職の方々と一緒にやらないと解決しない問題である。サポートファイルの中にいろいろな意見が入り、取り込まれていくようになれば、少しずつ改善できると考える。そのため、専門性を持ったものが意見を出し合っていくことが必要である。

また、国は制度自体が非常に難しいところがあるため、国に訴えていくことも必要であるが、そこに行きつくまでには、実際子ども達が毎日生活をしており、保護者も一生懸命子育てをしている現状がある。全国市町村を見ると独自の取り組みで改善しているところもあるため、高知市としてできることを探っていただきながら、国にも働きかけていただきたい。そして子ども達が本当に健やかに成長していけるような、基盤づくりをぜひお願いしたいと思っている。

## ⑤ その他ご意見・質問

### (吉川委員)

妊婦健診の回数は14回程やられているはずだが、小児の方は健診の機会が少ないため、1か月健診や5歳健診など将来的には心の健診も増やしていく方がいいと言われているかと思う。まずは1か月健診と5歳児健診どうするのか。高知市もおそらく取り組んでくれるとは思いますが、そのあたりをよろしくお願いしたい。

### (宮地委員)

資料3について、再掲として同じ事業が書かれているが再掲を載せている意味を教えてください。

### (子育て給付課)

再掲については、施策体系で同じ事業が出てくるところがある。資料1の施策体系に1-1から5-3までの体系を載せているが、重複している事業があるため、そこを再掲として表示している。今後見やすい形で表示していこうと考えている。

### (有田委員)

再掲について、きっと手厚い支援をしていくためにはここだけやっても駄目だということでもそれぞれの事業の中に入っているかと思うが、その事業の中でも見る視点が違うため、どこに重点を置くのかを明らかにしていただきたい。反対に事業名は違うが、やっていることは同じではないかという

事業もあり、それぞれ担当課の中で連携できているかということも課題ではないかと思うので、その辺整理していただくと高知市で取り組んでいる内容が我々としても理解しやすい。少し整理していただかないと、課題ばかりが出てきてどんどん事業数が多くなり、何をやっているかがわからないということになるため、今回はそういった視点でも見直しを行っていただきたい。

**(宮地委員)**

質問としては、再掲で手前に出てきた事業と全く同じ内容で載っているのに、事業数だけ増えている。同じ課がやっているのか、違う課でやっているのか、複数の課で行っているのかというのがわかると我々も整理しやすいというので質問している。

**(子育て給付課)**

先ほどと重複するが、施策体系ごとに事業をまとめている資料となっているため、同じ事業がそれぞれの施策に記載されている状況になっているが、今後見直しの協議をさせていただこうと思う。

**(中屋委員)**

高知市の施策を見させていただいたが、関わっている方たち、担当の方たちはすごく苦勞されており、精神的にも負担が大きいのではないかと思うので、そのような方たちのサポートもしていただきたい。

**⑥ 高知市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果について（報告）**

【子育て給付課から資料6，7について説明】

【質疑応答】

**(有田会長)**

回答が返ってこないご家庭についてはなにもわからないのか。回答を見ていると、市内に幼稚園は少ないけれど、幼稚園と選んでいる割合が多いということは、幼稚園に関わっているご家庭の回答率が高いのか。

**(子育て給付課)**

回答がされていないご家庭がどちらの地域でというのはわからない状況になっている。

**(吉川委員)**

少子化対策としてはいろいろな調査があり、その中で子どもを育てる自信がないとか、経済的な負担など、子育てへの負担感が多く、みんなが理想の子育てをしようとし過ぎて息切れをしている。もっと負担減の子育てをするような形をとっていかないと、急激に子どもが少なくなっていくと思われる。何か高知市の方でも考えていただきたい。また子育てを夫婦で共にしているというのは高知の強みであるため、共働きが多いなか男性が育児を手伝う、このようなことをどんどん進めていただきたい。

**(子ども育成課)**

事務局からお配りした「子育て支援ガイドばむ」ですが、先ほどの議題の中にもありました冊子ですが、こちら電子版書籍もごございますのでどうぞご覧いただきまして、ご活用をお願いしたい。

**3 閉会**